

令和3年度三次市公共事業評価監視委員会【議事要旨】

開催日時 令和4年3月10日（木） 10時00分開会 11時15分閉会

開催場所 オンライン会議（事務局：三次市役所本館603会議室）

対象事業 三次市公共下水道事業（地域再生計画）

出席委員 田中貴宏委員長，今川朱美委員，前田奈美委員，
河原直己委員，宗清弘樹委員

市出席者 福岡市長（諮問のみ）

水道局 加藤下水道課長，近藤係長，

経営企画部 宮脇部長，渡部企画調整課長，倉川係長，高橋主任

議事

委員長の進行により議事に入る。

審議

（事務局）

下水道課から事業概要及び資料説明

（委員長）

これより審議に入ります。「ア 事後評価手続き等にかかる審議」について、各委員からご意見ご質問があればお願いします。

（委員）

事前説明の際に、河川のBOD値について、平成30年度では2.3 mg/ℓと数値が下がったが、令和2年度には2.9 mg/ℓと上昇した要因について、採水時の河川状況によって変動することも考えられ、要因を特定することは困難であるとの説明を受けたところです。数値が上昇傾向にあるのではないかと危惧していましたが、この度、参考数値として令和3年6月と12月の数値が示されたことにより、目標数値内で推移していることが確認できたため、下水道整備によって水質が改善されているということがわかり安堵しています。

（委員長）

令和3年度の数値を見ても、やはり値が変動する性質のものであるということがわかりました。河川のBOD値を評価指標として適切に計測しようとしたとき、降雨等の周辺環境

の変化になるべく左右されないようなやり方は、どのような方法があると考えていますか。

(下水道課)

現在の採水方法は、指定場所で1回のみ採取を行っています。今後はそれを数回採取することで検体を増やし、その平均値を採用していく方法がよいのではないかと考えています。

(委員長)

引き続き、河川のBOD値に配慮していくことは必要であり、定期的な計測なども必要なのではないかと思いますので、その辺りも検討してください。

他に意見はございませんか。

(構成委員一同)

なし。

(委員長)

それでは、審議「イ 今後の公共下水道事業のあり方に係る審議」について、各委員からご意見ご質問があればお願いします。

(委員)

ヒト・カネ・モノについて課題を抱えているという説明であったが、都市計画の分野ではコンパクトシティという考え方が推進されようとしています。持続可能なまちづくりということで、下水道はまさにメインの一つになると思います。今までどおり下水道地域を整備していく一方で、コンパクトシティの流れに乗ることも加味していく必要があると思います。都市計画の部署とも十分に連携を取りながら事業を進めていただきたいと思います。

(下水道課)

下水道事業は、生活環境の改善や公共水域の水質保全などの観点から、これまでハード事業を中心に整備を進めてきたところです。三次処理区では、下水道整備面積を当初1,010haと計画していましたが、約690haまで整備面積を縮小し、浄化槽整備に切り替えています。令和17年度を事業完了の最終目標としていますが、それまでには人口の減少な

ども考えられることから、その都度、必要な見直しを行いながら整備を進めていきたいと考えています。

(委員)

中間評価の際にも、公共下水道と浄化槽整備、農業集落排水とのバランスを取りながら整備を進めていくと説明があったと思います。それを軸に今後も整備が進められると思いますが、三次市民の生活環境の整備を最優先に考えることはもちろん、これからのコンパクトシティの流れにも下水道事業をうまく乗せて、将来展望を持って進めていただきたいと思います。

(委員長)

国、県等のコンパクトシティ化という大きな流れがある中で、三次市としてどのようなまちづくりをめざすのかということと、下水道事業は一体であるべきであると思います。都市計画やまちづくりの取組との連携を意識しながら事業にあたっていただきたいと思います。

(委員)

地域再生計画の目標1として掲げられている、年間総観光客数の増加は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は達成することができなかったが、交流人口の増加という目標は大変有意義なことであるので、今後、他の計画を立案する際にも評価指標として考慮していただきたいと思います。

「川のまち三次」ということで、川に親しみを持っている市民も多いとは思いますが、近年では、水害等により川が怖いという市民も多いのではないかと思います。水害に強いまちづくりを前面に出しながら、「川のまち三次」のまちづくりをめざしてほしいと思います。

(企画調整課)

市長の施政方針でも申し上げていますが、災害に強いまちづくりを第一義として、治水や利水を実施していきたいと考えています。内水関係の施設もできていますし、流域治水にも取り組んでいきます。一方では、都市建築課で三川合流部の周辺整備として、川に親しむ事業にも取り組んでいきます。ご指摘の点は担当部署にも申し伝えます。

(委員)

経費回収率が 100%に達していないという説明であったが、これは使用料の設定がもともと低いからなのか、それとも汚水処理経費が上がっているのか、または、使用料の額は適正だが使用料（債権）の回収ができていないのか、要因を教えてください。

(下水道課)

使用料については、合併して以降、現在まで改定を行っていない状況です。一方で、維持管理費については、人件費労務単価の上昇、汚水処理を行うために必要である薬品など年々上がっている状況です。使用料に対する収納率は 100%に近い数値で推移していますが、経費回収率には使用料の回収（収納率）は関係しません。結果として、現在の使用料に対して汚水処理にかかる経費が高くついているという状況です。今後は、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減について検討する必要があると考えています。

(委員)

使用料が時代にあっていないという側面と、汚水処理原価があがっているという両面があるということがわかりました。

(委員長)

その他、ご意見ご質問はありますか。

(構成委員一同)

なし。

(委員長)

質疑意見も出尽くしたと思いますので、まとめに入らせていただきます。総合的に判断し、本件について「妥当である」と、本委員会として結論付けるということによろしいですか。

(構成委員一同)

意義なし。

(委員長)

それでは、そのように具申させていただきます。先ほど皆さんから今後に向けたご意見として、評価指標の取り方のこと、人口減少の中でコンパクトシティと下水道事業を連携させていくことの必要性、「川のまち三次」のまちづくりを進めていく上で、交流人口や災害との関係も考慮していく必要があること、経費回収率のことなど、様々なご意見をいただきました。

これら意見については、意見具申とともにまとめて市長へ提出させていただきます。意見と議事録要旨については、事務局と私で調製し、皆さんに一度ご確認いただいたうえで、最終案の作成については事務局と私に一任していただく形で進めたいと思いますがよろしいですか。

(構成委員一同)

異議なし

(委員長)

ありがとうございます。ご異議がないようなので、そのように進めさせていただきます。皆さんのご協力により、本日の委員会のすべてを終了することができました。ご協力に感謝を申し上げます。事務局へ進行をお返しします。

(事務局)

長時間にわたりご審議いただき、誠にありがとうございました。本委員会の会議の様子や議事録などは市のホームページに掲載いたしますのでご了承ください。以上で閉会いたします。